

長野県絶滅種ジロボウエンゴサクの松本市での自生確認

大塚孝一*・小山泰弘**・上野勝典***・上野由貴枝***

近年、観察や自生の記録がなく、『長野県版レッドデータブック維管束植物編』で絶滅種とされた小型の草本植物のジロボウエンゴサクの自生が、長野県中部の松本市内で2005年5月に確認された。生育地は1ヶ所のみで個体数は約100であった。

キーワード：ジロボウエンゴサク，ケマンソウ科，絶滅危惧，松本市，長野県

1. はじめに

著者の上野勝典と上野由貴枝は、2005年5月に松本市内でケマンソウ科 *Fumariaceae* ケマン属 *Corydalis* のジロボウエンゴサク *Corydalis decumbens* (Thunb.) Pers. が自生状態で生育していることに気づき、その後大塚、小山を加え現地調査を行った。この種は2002年に刊行された『長野県版レッドデータブック維管束植物編』では絶滅種と記載されていて、長野県からは1932年に天龍村から記録されたが、それ以後、天龍村を含め長野県からは採取や観察の記録がなかった¹⁾。現地調査の結果から、絶滅種とされた植物の自生確認とその生育状況を報告する。

2. ジロボウエンゴサクについて

ジロボウエンゴサクは関東以西の本州、九州から中国本土、台湾に分布し、山麓の林や道端、川岸などに生える小型の多年性草本植物である。地下に塊茎を持ち、塊茎の頂端から数個の根出葉と複数の花茎を出す。葉は2～3回3出複葉で、長い柄がある。花茎は高さ10～20cmで、柄のある葉がふつう2個つく。花茎の最下葉は鱗片葉に退化しない。花は紅紫色～青紫色で、花期は4～5月である^{1)・4)}。

3. 自生確認と生育状況

2005年5月28日、松本市内田でジロボウエンゴサクの自生を確認し(図1)、生育状況調査を行っ

た。証拠標本：ジロボウエンゴサク，長野県松本市内田(上野勝典・上野由貴枝s.n., 2005年5月8日，標本番号NAC142739)。自生地は、松本市内田の山林中の沢状のやや湿った林床である。確認した個体数は、生育地約4m×5mの範囲に約100であった。

松本市内田地域は、江戸末期の元治年間から森林の伐採が進み、明治の初めには森林の大半が失われた場所である⁵⁾。このため現在でも自然植生は少ない。当地周辺でも天然林はなく、ごく稀にブナ *Fagus crenata* やモミ *Abies firma*、アカマツ *Pinus densiflora* 等の大径木が点在しているだけで、カラマツ *Larix kaempferi* やスギ *Cryptomeria japonica* 等の針葉樹人工林とアカマツ林が大半を占めている。

今回確認したジロボウエンゴサク自生地の植生調査結果を表1に示す。植生調査は、Braun-Blanquetによる植物社会学的手法⁶⁾を参考にして、自生場所を含む5m×15mの範囲で行った。自生地は傾斜5～10度の北斜面で、沢状地の小さな小川の岸である。林相は高木層にカラマツを含むコナラ林で、亜高木層を欠き、低木層はガマズミ *Viburnum dilatatum*、ツノハシバミ *Corylus sieboldiana*、サンショウ *Zanthoxylum piperitum* などからなる。ジロボウエンゴサクは草本層に生育し、草本層には他にアキギリ *Salvia glabrescens*、ミズヒキ *Antenoron filiforme*、ムラサキケマン *Corydalis incisa*、ネコノメソウ *Chrysosplenium grayanum*、イブキスミレ *Viola mirabilis* var. *subglabra*、ゴヨウアケビ *Akebia × pentaphylla*、アズマイチゲ *Anemone raddeana*、チゴユリ *Disporum smilacinum*、サワギク *Senecio nikoensis* などがみられた。

* 長野県環境保全研究所 自然環境チーム 〒381-0075 長野市北郷2054-120

** 長野県林業総合センター，***

表1 ジロボウエンゴサク自生地の植生調査



図1 ジロボウエンゴサク (松本市 2005年5月8日)

高木層に見られるカラマツは、本州中部の亜高山帯に自生する落葉針葉樹であるが、明治初期から寒冷地の造林樹種として広く植栽されており、当地においてもカラマツは人工植栽されたものである。植生調査の結果からみると、カラマツよりもコナラ *Quercus serrata* が高木層で多く生育しており、その他の階層ではミズキやミツバウツギ *Staphylea bumalda*、ネコノメソウ、サワギク、ヒメザゼンソウ *Symplocarpus nipponicus* などの沢筋や斜面下部に多く生育する植物が多かった。また、林縁部などに多いゴヨウアケビやカナムグラ *Humulus lupulus* var. *cordifolius*、ヤマカシユウ *Smilax sieboldii* などのつる性植物も認められた。以上のことから、当地はカラマツを人工植栽したものの、その後の管理が不十分なため、明るい環境を好むつる性植物と天然生のコナラが良好に生育し、コナラが優占した林分と考えられた。

自生地ではジロボウエンゴサクが集団的に存在していたが、その周辺の踏査によっても他に確認できなかった。本種は観賞用として利用される植物ではないことから、人為的影響で持ち込まれたものではないと判断した。

なお、ジロボウエンゴサクは、『長野県版レッドデータブック維管束植物編』で絶滅種として扱われたが、今後は絶滅危惧種に相当する植物となる。長野県内で確認されている自生地は、松本市の1ヶ所のみであり、採集圧による絶滅の危険があるため、詳細な自生場所の公表は差し控えたい。

調査地名		松本市内田
調査年		2005年
調査月日 (月/日)		5/28
方位		N
傾斜 (°)		8
調査面積 (㎡)		5×15
高木層の高さ (m)		25
高木層の被植率 (%)		95
最大木の胸高直径		60
亜高木層の高さ (m)		-
亜高木層の被植率 (%)		-
低木層の高さ (m)		3
低木層の被植率 (%)		15
草本層の高さ (m)		0.8
草本層の被植率 (%)		80
出現種数		56
高木層		
コナラ	<i>Quercus serrata</i>	4・3
カラマツ	<i>Larix kaempferi</i>	2・2
ミズキ	<i>Swida controversa</i>	2・2
低木層		
ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	2・1
ツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana</i>	1・1
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	1・1
オトコヨソメ	<i>Viburnum phlebotrachelum</i>	1・1
コブシ	<i>Magnolia praecoccisima</i>	+
ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	+
草本層		
ミズヒキ	<i>Antenoron filiforme</i>	2・1
ゴヨウアケビ	<i>Akebia X pentaphylla</i>	2・1
イブキスミレ	<i>Viola mirabilis</i> var. <i>subglabra</i>	2・1
アキギリ	<i>Salvia glabrescens</i>	2・1
マムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>	1・1
ジロボウエンゴサク	<i>Corydalis decumbens</i>	1・1
スズタケ	<i>Sasamorpha borealis</i>	1・1
アオイスミレ	<i>Viola hondoensis</i>	1・1
ムラサキゲマン	<i>Corydalis incisa</i>	1・1
ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	1・1
サワギク	<i>Senecio nikoensis</i>	+・2
ヒメザゼンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i>	+・2
ヒナスミレ	<i>Viola takehana</i>	+・2
ヤマウコギ	<i>Acanthopanax spinosus</i>	+
ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i>	+
アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphylla</i>	+
エノキ	<i>Celtis sinensis</i>	+
セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>	+
フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	+
ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	+
フタリスズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	+
ユモトマムシグサ	<i>Arisaema nikoense</i>	+
ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	+
ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	+
ヤブメ	<i>Amphicarpea bracteata</i> ssp. <i>edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	+
イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i>	+
キツリフネ	<i>Impatiens noli-tagere</i>	+
チヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	+
スグリ	<i>Ribes sinanense</i>	+
ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	+
コミネカエデ	<i>Acer micranthum</i>	+
オオバノヤエムグラ	<i>Galium pseudo-asprellum</i>	+
ホタルカスラ	<i>Lithospermum zollingeri</i>	+
アカネ	<i>Rubia argyi</i>	+
オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	+
アカツ	<i>Boehmeria spicata</i>	+
カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>	+
ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	+
ヤマカシユウ	<i>Smilax sieboldii</i>	+
コナラ	<i>Quercus serrata</i>	+
ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	+
ダンコウバイ	<i>Lindera obtusiloba</i>	+
ミヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	+
ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>	+
ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>	+
ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i>	+
スグSP	<i>Carex</i> sp.	+
アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	+
ウツミズザクラ	<i>Prunus grayana</i>	+
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	+
イヌワラビ	<i>Athyrium nipponicum</i>	+
ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	+
ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i>	+
ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>	+
ミズタガラシ	<i>Cardamine yazoensis</i>	+
チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	+
ヒトリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>	+
サルナシ	<i>Actinidia arguta</i>	+
ミソソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>	+
ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	+

文 献

- 1) 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック-
維管束植物編, 297pp. 長野.
- 2) 大井次三郎 (1982) ケシ科 (佐竹義輔編)「日
本の野生植物Ⅱ」: pp122-126. 平凡社. 東京.
- 3) 清水建美編 (1997) 長野県植物誌, 1735pp, 信
濃毎日新聞社. 長野.
- 4) 北村四郎・村田源 (1961) 原色日本植物図鑑草
本Ⅱ, 390pp. 保育社. 大阪.
- 5) 牛伏川砂防工事沿革史編纂会 (1933) 牛伏川砂
防工事沿革史, 212pp.
- 6) 鈴木兵ニ・伊藤秀三・豊原源太郎 (1985) 植生
調査法Ⅱ. 共立出版株式会社. 東京.

**A regional extinct species *Corydalis decumbens* (Thunb.)Pers.
Found in Matsumoto City, Nagano Prefecture**

Koichi OTSUKA*, Yasuhiro KOYAMA, Katsunori UENO and Yukie UENO

* *Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Team,
2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan.*